



企業年金の種類と掛金



年金には国から受ける公的年金の他に、企業年金があります。企業年金の種類や掛金の負担について見ていきましょう。



企業年金とは？

年金には、国から受ける公的年金と、働いていた会社から受ける企業年金があります。企業年金には誰でも加入できるわけではなく、企業年金を実施している会社で働いていて、厚生年金の被保険者であるといった加入者の条件

を満たしていることが必要です。

企業年金には、以下の3種類があります。

- ・ 確定給付企業年金（DB）
- ・ 企業型確定拠出年金（企業型DC）
- ・ 厚生年金基金



掛金の負担も運用も会社が行うDB

DBは、将来の給付額があらかじめ確定している企業年金のことです。その金額を目指して会社が掛金を負担し、運用を行います。

積立金に不足が生じてても、不足分は会社側がすべて補^ほてします。また、年金資産がきちんと積み立てられている

か毎年確認する仕組みもあります。

会社側がほぼすべてのことを行うため、加入している実感があまりないかもしれません。しかし、掛金の納付状況や資産運用の状況などは必ず周知されているので、加入している人はぜひチェックしてみてください。



会社が負担した掛金を加入者が運用する企業型DC

企業型DCは、拠出する掛金が確定している企業年金のことです。

掛金は会社が全額負担しますが、会社が定めたルールがあれば、加入者が掛金を拠出することも可能です。加入者は金融商品を選び、金融機関が運用を行います。

給付額は運用結果によって変動します。

自分で金融商品を選んで年金資産の運用を指示するのは難しそうな気もしますが、会社ではセミナーなど運用について学ぶ機会が設けられているため、積極的に学んでみましょう。



会社と加入者で掛金を負担する厚生年金基金

厚生年金基金は、国の老齢年金の一部と一体化しているのが特徴で、掛金は会社と加入者で負担します。国の年金と一体化した部分に加えて、厚生年

金基金独自の給付もあります。

2014年以降、厚生年金基金は新設が認められなくなり、2024年3月末時点でわずか4基金となっています。